

# 伊藤ゆみ

実録!!

ほんとうにあった

怖い話

2

〜血塗られたトンネル〜





おひさしぶりです  
伊藤ゆみです

これはまだ私が  
東京都下にある  
天家にいるころの  
ことでした

また  
夜明かし  
しちゃったよ

こんな時は  
やっぱり

ア・レ・  
だよ

おんげおんげ インターフェイス

その頃私の  
ストレス解消法は  
夜明けのツーリング

んーこの  
メチャクチャな  
アイドリングの  
音がまた快感♡

ブルブルブル

さあ  
いざ時へ

当時お気に入り  
コースはまだ暗い内に  
家を出て

青梅街道から  
朝もやの中  
奥多摩に入り

この時間だと  
車もバイクも  
いないから

朝の風景  
見ながらのんびり  
走れるんだよね

ちょうど  
日が出た頃  
小河内ダムで

早朝一番の  
奥多摩湖を見ながら  
朝の一番をする  
——というものでした

朝の奥多摩  
ひとりじめ!!

①まゆみ前の娘  
おはさんお母さん  
ニめんてー

.....  
00





ところが  
その日は



ちなみに私の  
散歩コース(?)は

左折して駐車場の  
方へ行く道なの  
ですが

その日は工事の  
ため通行止めに  
なっていました

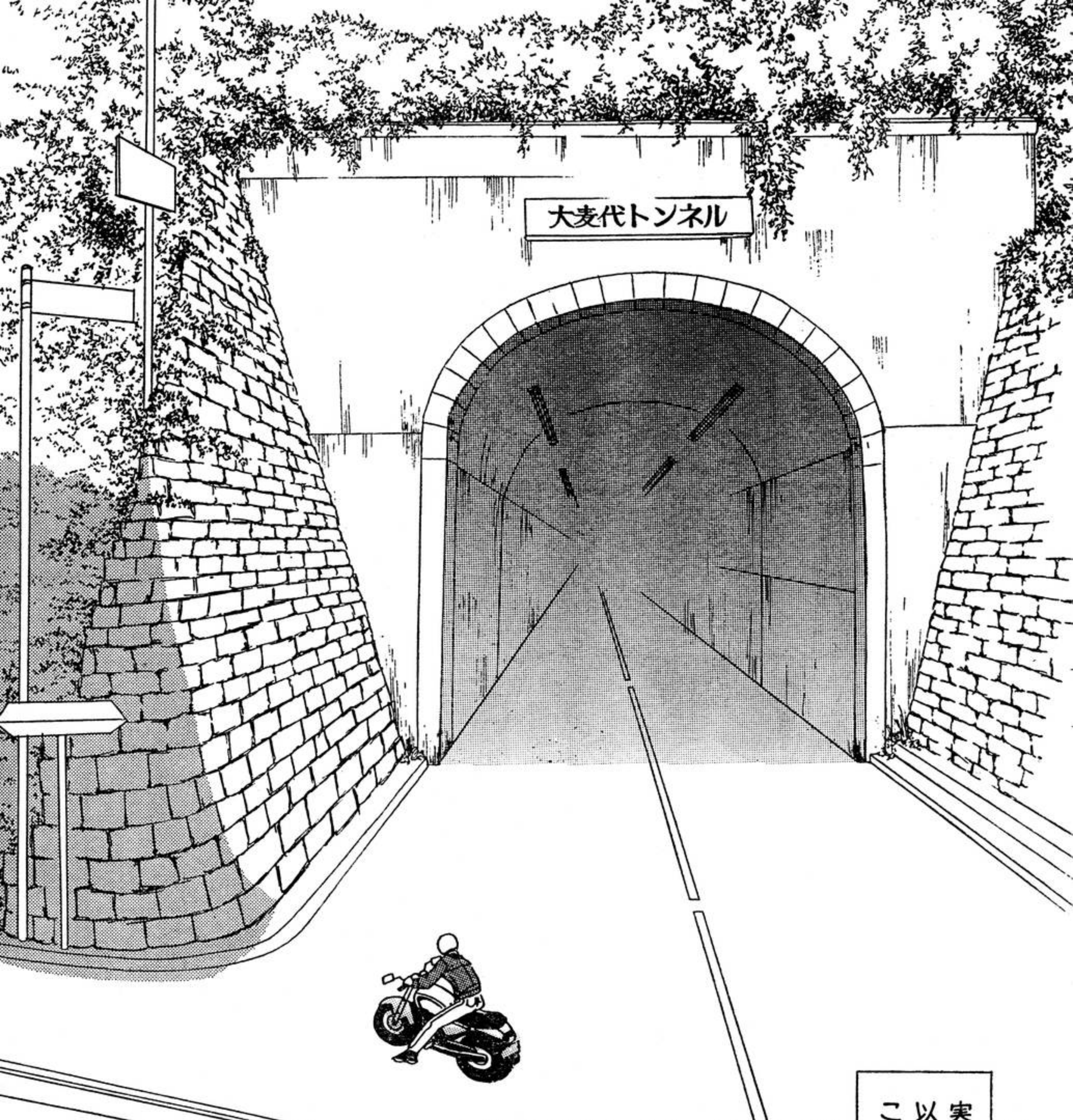
現在地



うーん  
どうしよう  
かな

もちろんここで  
直進しても  
トンネルの先で  
道は合流するので

行く先が変わる  
ことも遠回り  
になることもないの  
ですが



大麦代トンネル

実は私  
以前からなんとなく  
このトンネルが

# 大麦代トンネル

苦手だったので

なーんか  
いやなんだ  
よなー

このトンネル…



とりたてて汚い  
トンネルという  
わけでもないし

何か噂うわさのような  
ものを聞いたわけ  
でもないのですが

ただ本当に  
なんとなん  
いやで

今まで入った  
ことがありません  
でした

とは言え  
ここを通らな  
ければ

あとは今来た  
道を引き返す  
しかないわけだし

苦手と言っても  
具体的に何か  
感じるわけでも  
ないし

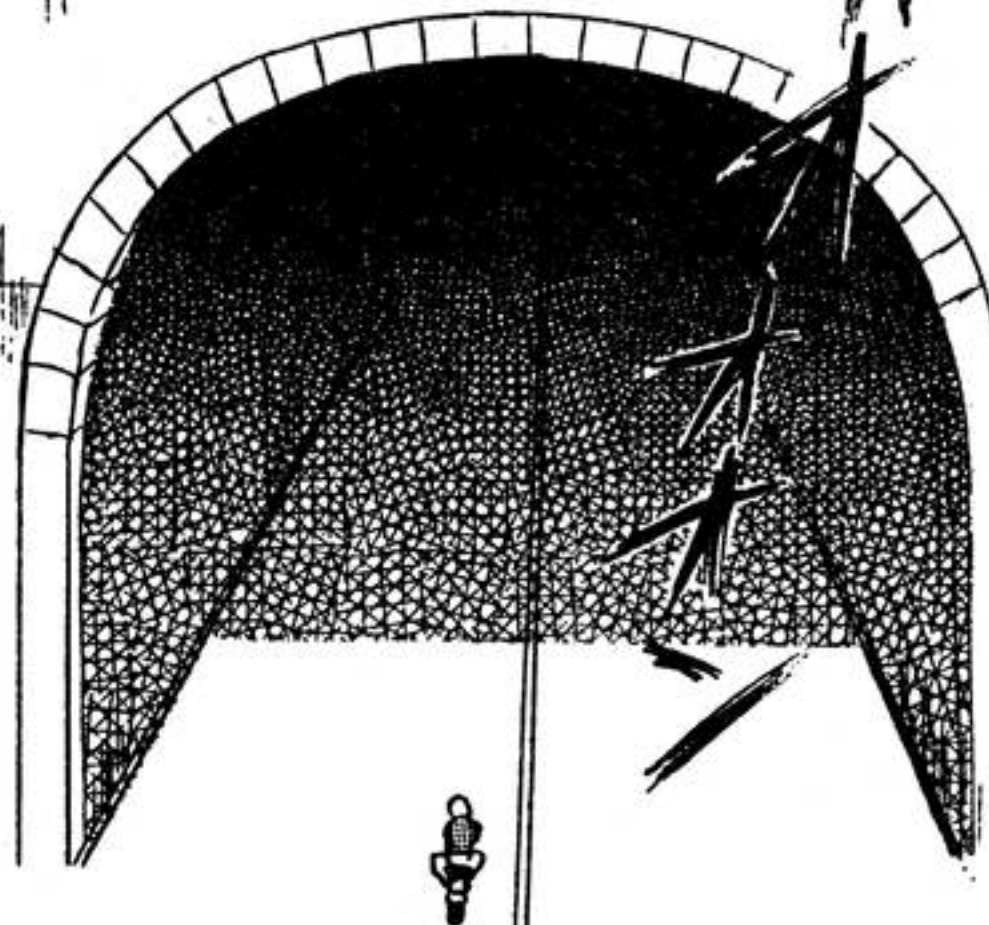
変に気に  
しすぎるのも  
よくないしな

どうせ  
数十秒の  
ことだ



一気に  
通過しちゃえ

大麦代トンネル



大妻代トンネル

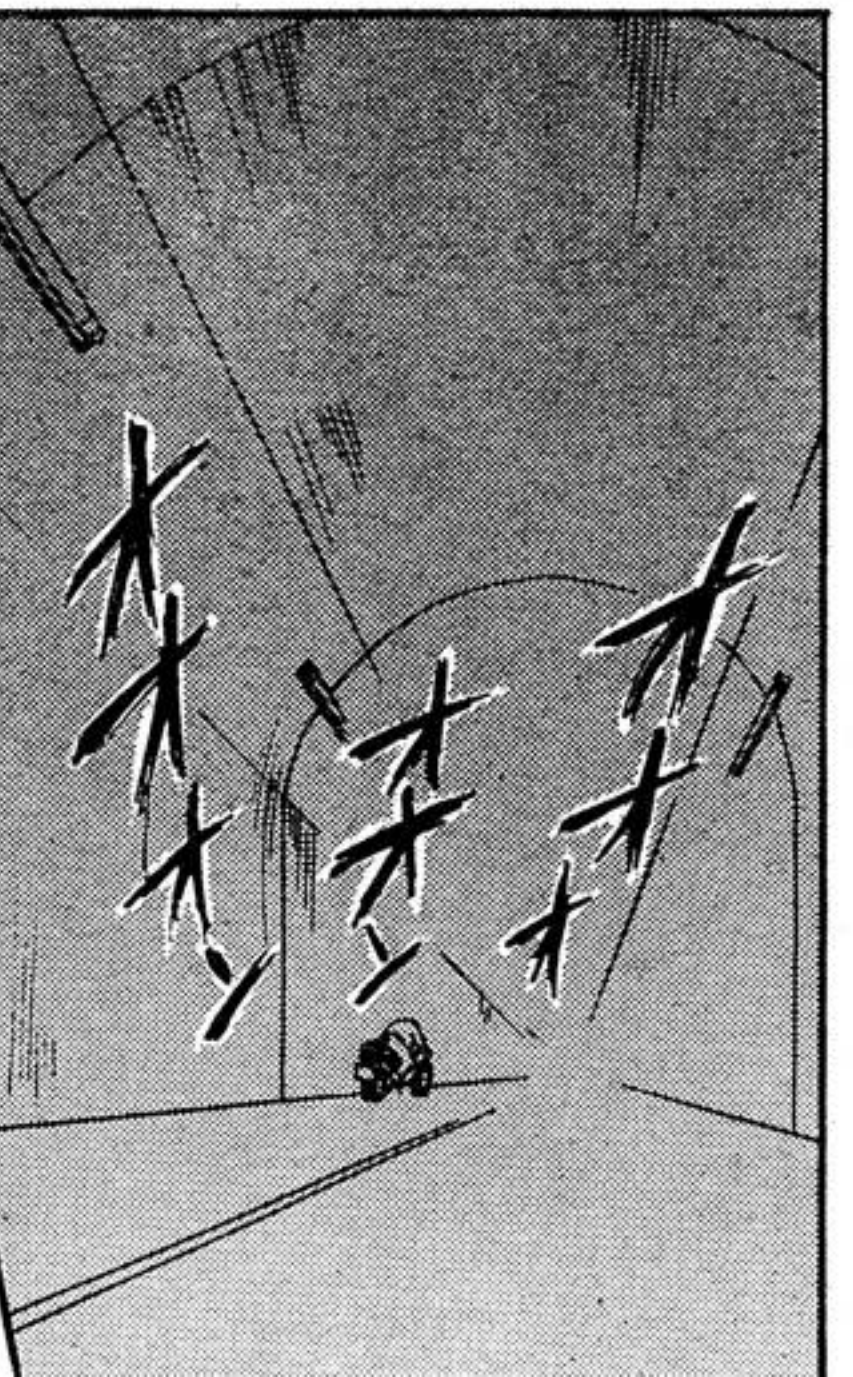
しかしいざ  
入ってみると

そのトンネルは  
奥多摩の他の  
トンネルより

ずっと広く  
きれいで明るい  
トンネルでした


しかし

入って数十mと  
走らないうちに










それは  
巨大な視線  
でした

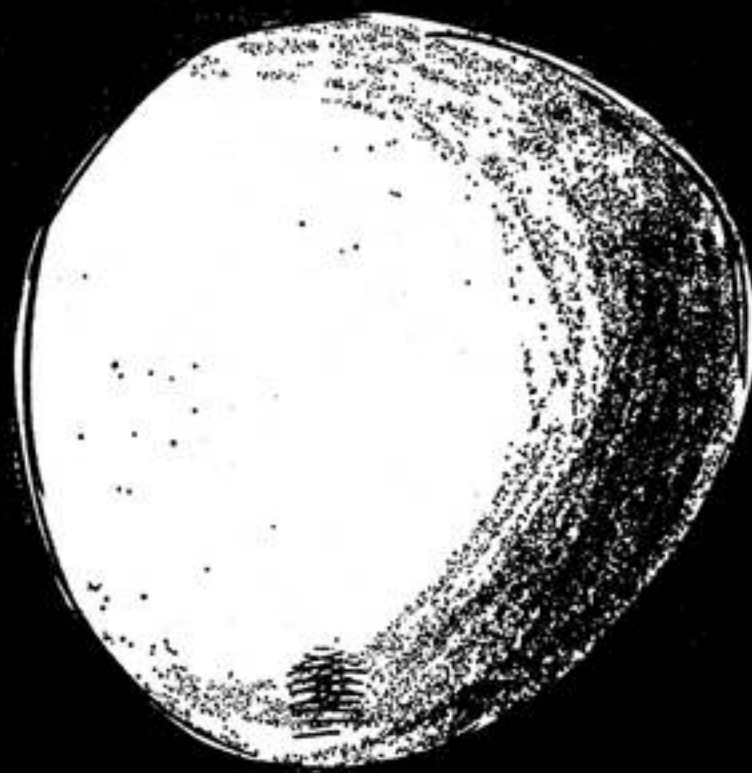
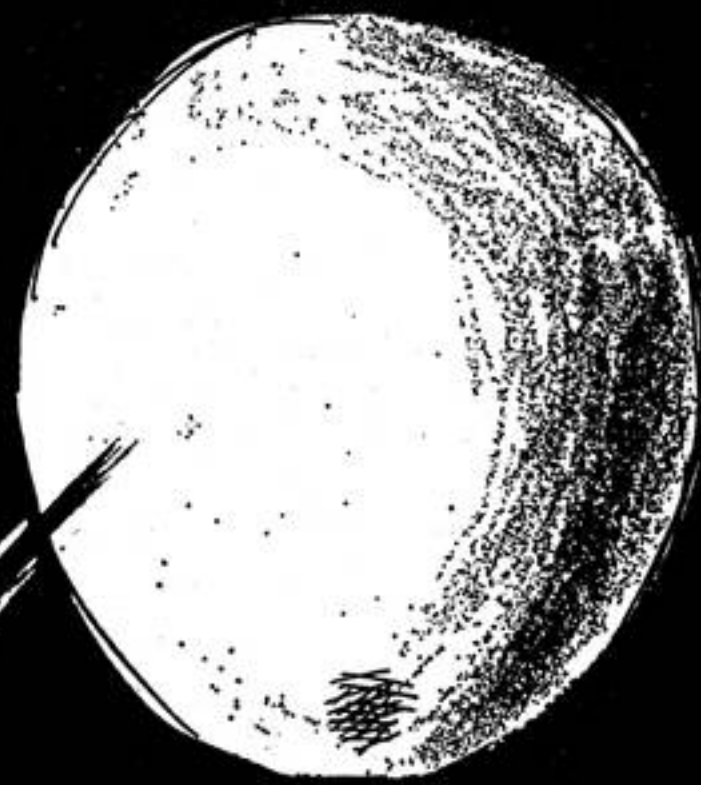


もちろん  
バックミラーを  
見る勇気は  
ありません  
でした

うわー  
ついてくる  
ついてくる

でもその視線が  
どんどん追いついて  
来るのは  
わかりました

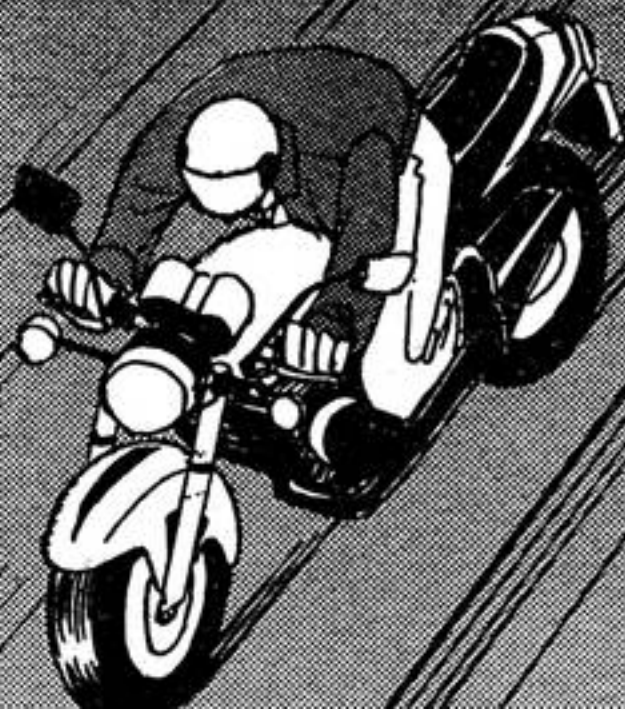
でも  
——でも!!



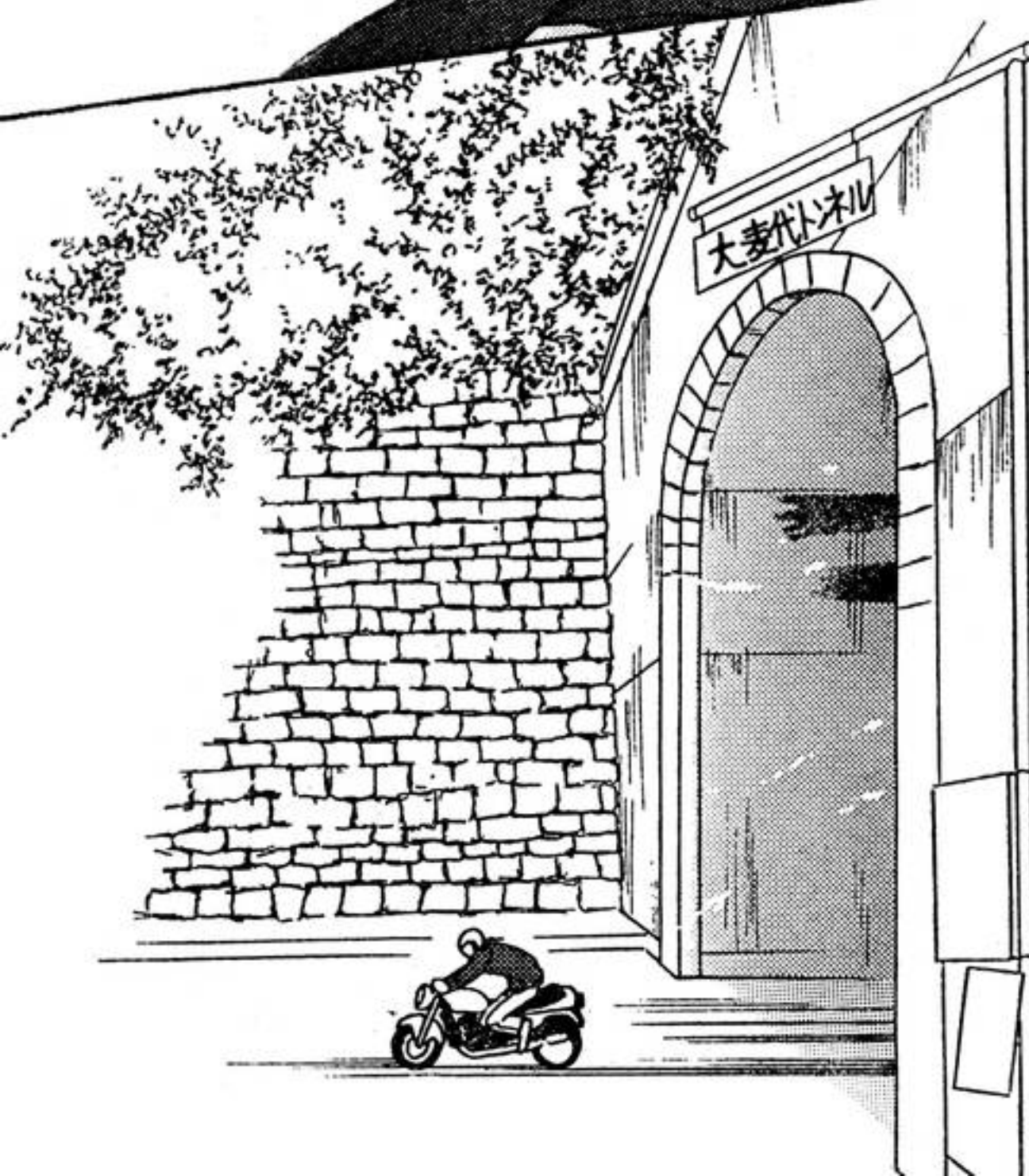
ここで  
あせったら

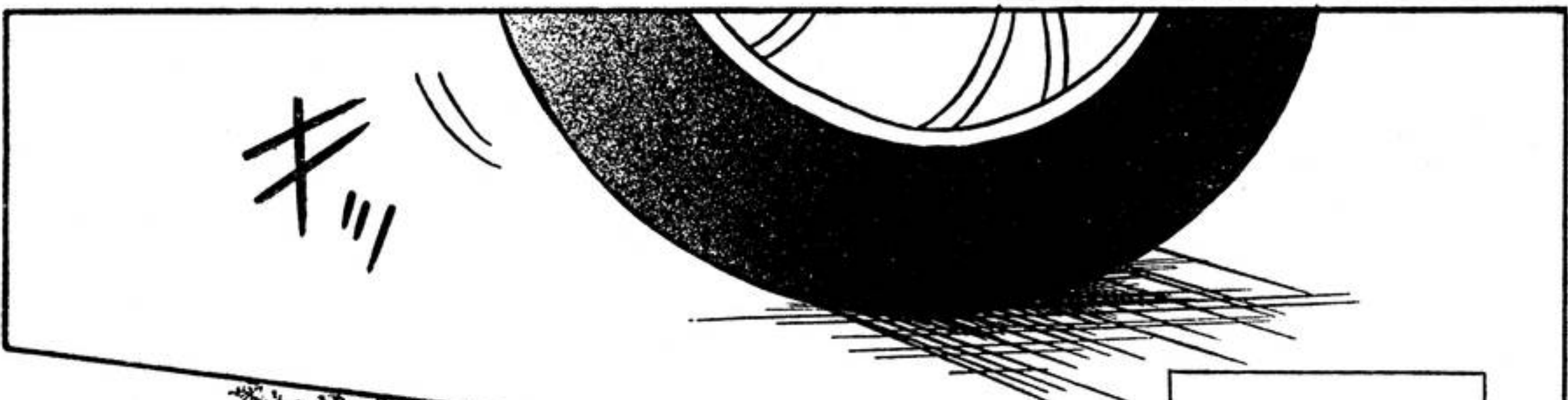
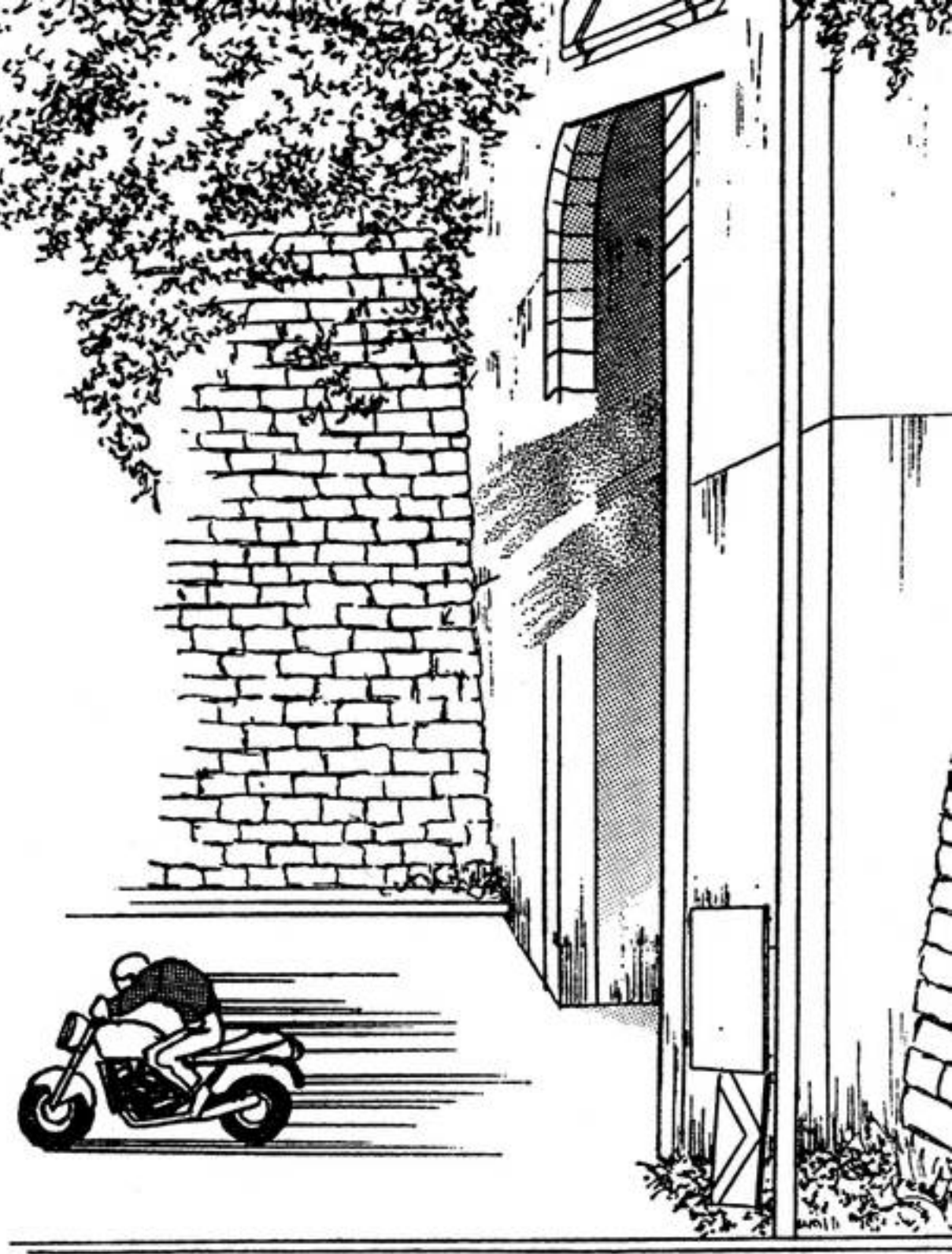
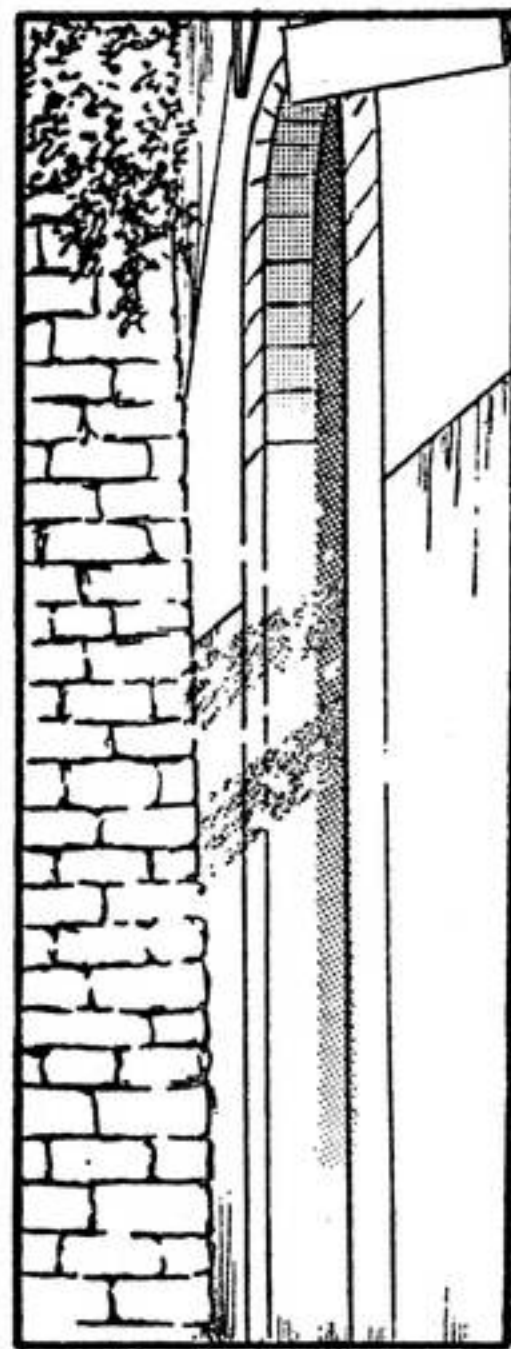
奴の思うツボだ!!

とにかく  
パニックしたら  
事故ると  
思いました



# もう一人の友達





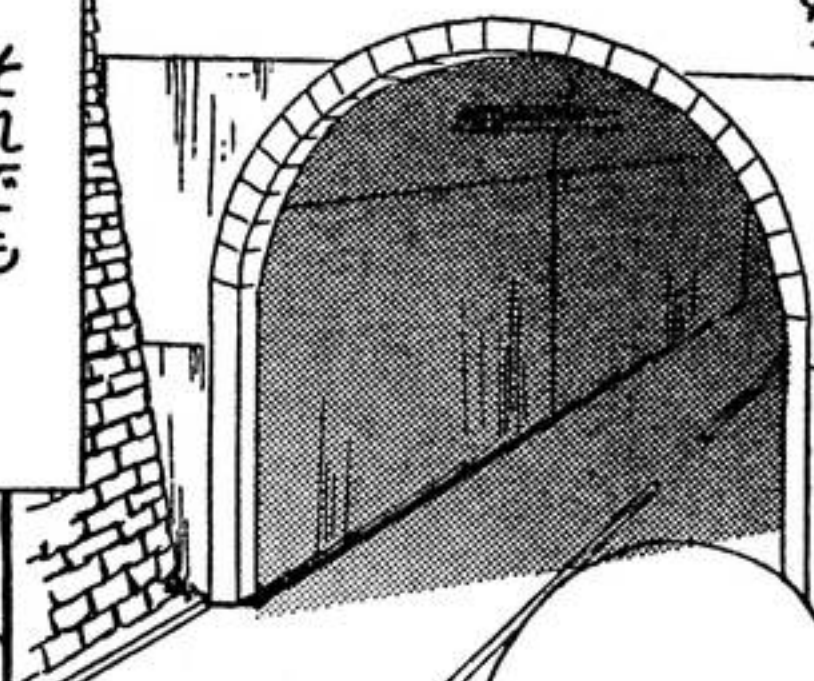
トンネルから  
出ると気配は  
もうついて  
来ませんでした

それでも  
その日は家に  
帰るまで  
ドキドキ  
でした

ビクビク

あんなのが  
ついてきたら  
すっごくイヤだ  
ぞり

本当について  
きてないよな

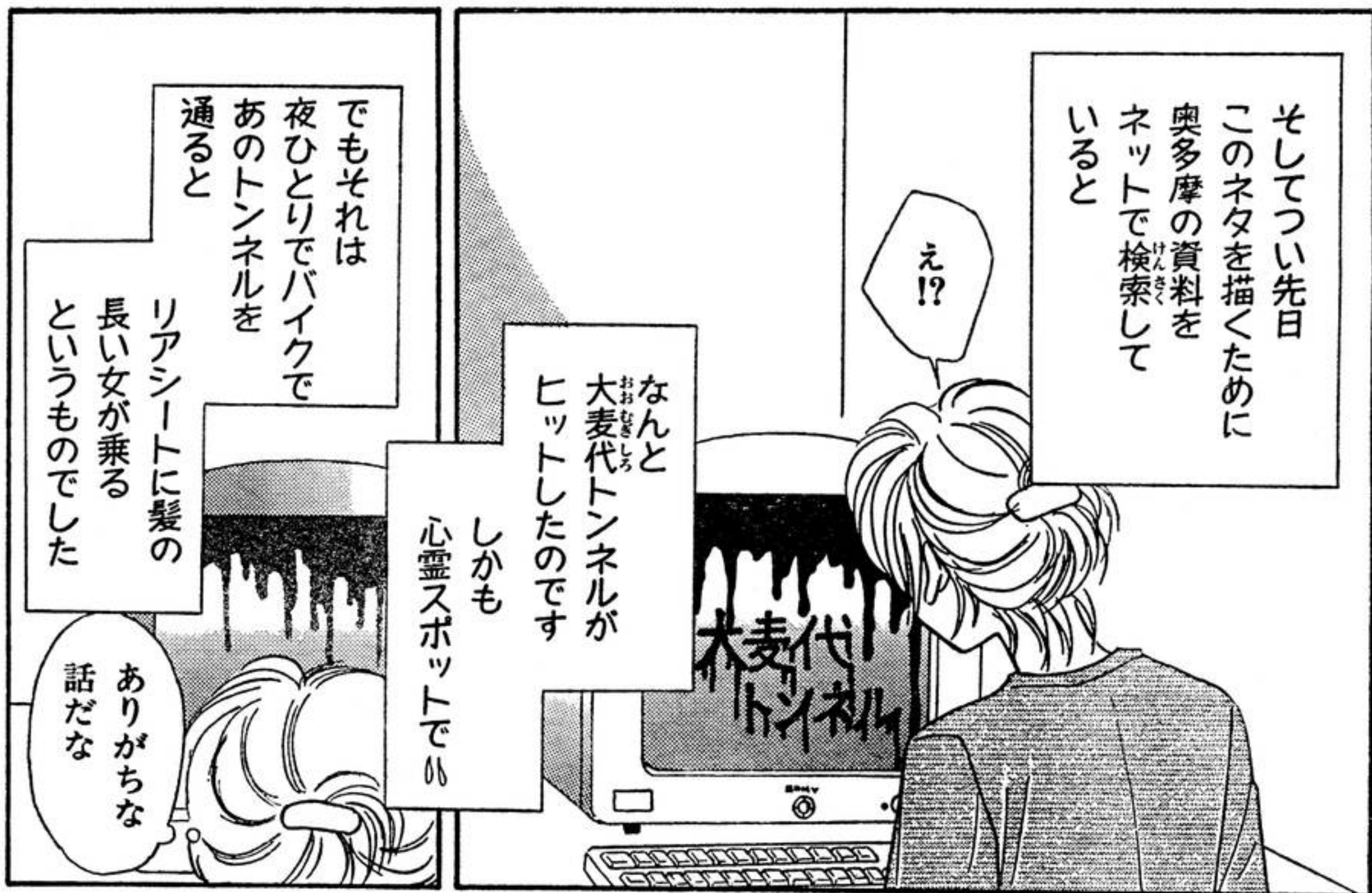


あいつ  
トンネルからは  
出られないの  
かなあ……



**超安全運転**

# もう一人の友達



そしてつい先日  
このネタを描くために  
奥多摩の資料を  
ネットで検索して  
いると

え!?

なんと  
おおむかし  
大麥代トンネルが  
ヒットしたのです

しかも  
心霊スポットで

でもそれは  
夜ひとりでバイクで  
あのトンネルを  
通ると

リアシートに髪の  
長い女が乗る  
というものでした

ありがちな  
話だな



私を感じた  
あの大目玉は  
男っぽかったけど  
別人かな……

ま今となつては  
確かめようも  
ありませんが

———というか  
確かめに行く  
勇気はない



でも長く  
霊感体質  
やっていると

こういうことにも  
どこか慣れて  
しまった所も  
あるのですが

それでも自分の  
状況がつかめていな  
かった子供の頃は  
結構怖い思いも  
しました

次はそんな  
子供の頃  
のお話です



子供の頃家の  
近所にお墓と隣接  
した神社があつて

そこには簡単な  
遊具もあり  
子供達のよい  
遊び場でした



その日も私は  
数人の友達と

神社の裏で  
遊んでいたの  
ですが



あそうだ  
さつきお母さんに  
もらったアメが  
あつたんだ

ちようど  
五個あるから

一人ひとつずつ  
食べよ

え!?